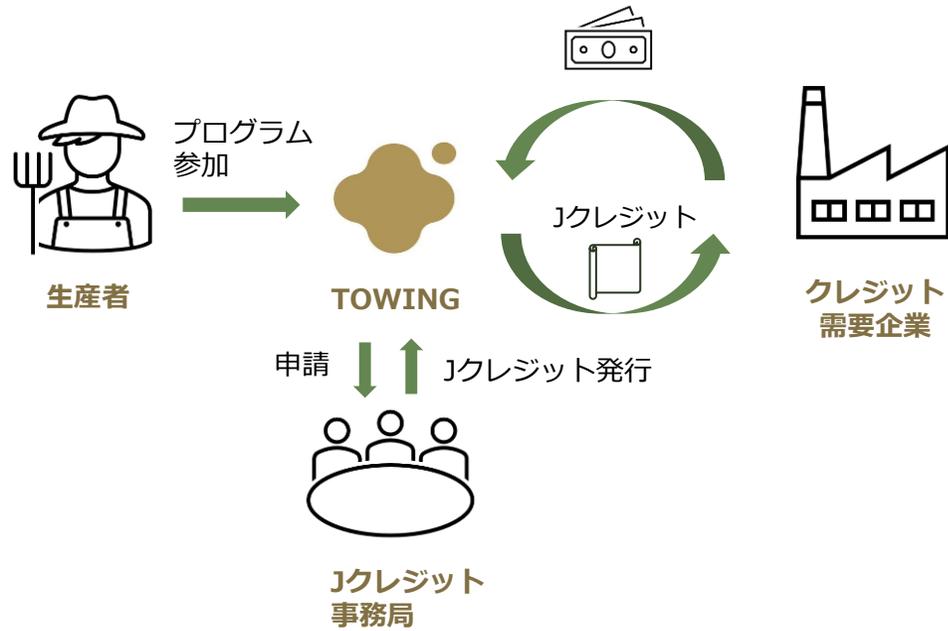


- 宙炭による脱炭素効果は、日本のカーボンクレジット制度である「J-クレジット制度*」によりクレジット化

*：温室効果ガスの排出削減・吸収量を「クレジット」として国が認証し、取引を可能とする国内制度

TOWINGのプログラム



プログラム実績

270トン-CO₂ のクレジットを創出

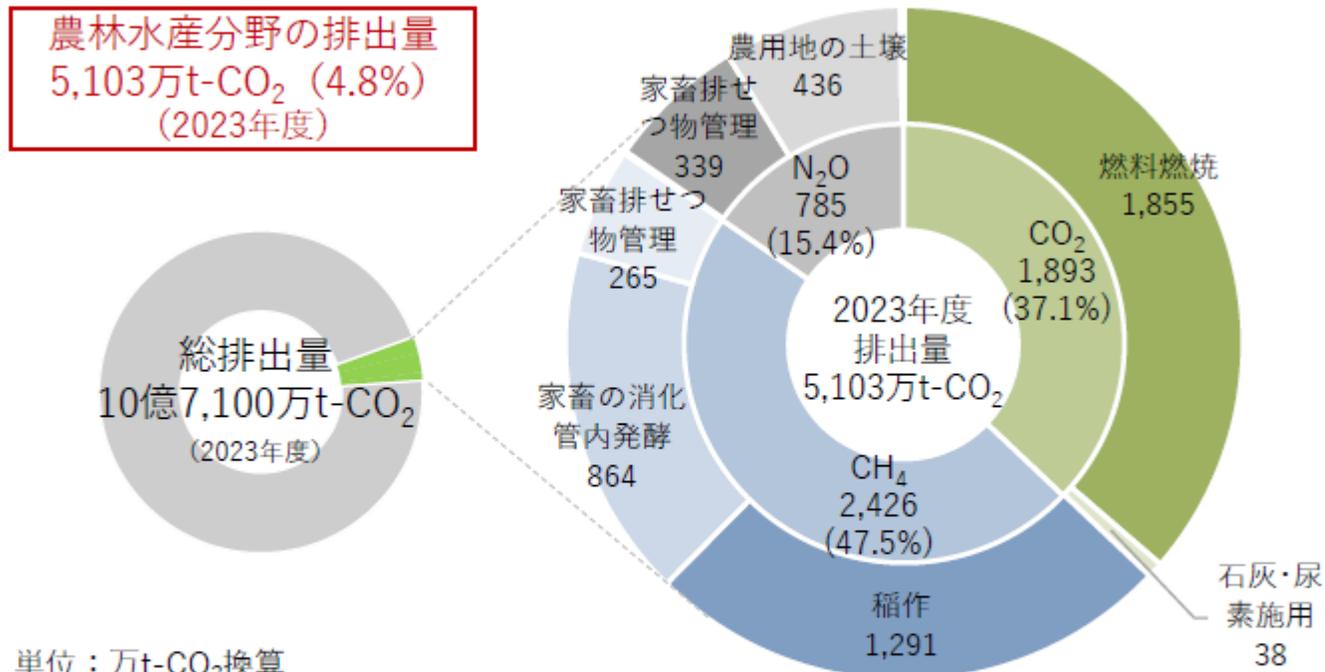
バイオ炭による炭素貯留において
トップクラスの実績

- ✓ 日本の排出量は10.71億トン
- ✓ うち農林水産分野は5,103万トン
全排出量の4.8%（2023年度）

主な排出源

- ・ 施設暖房（CO₂）
- ・ 水田（CH₄）
- ・ 家畜の消化管内発酵（CH₄）
- ・ 家畜排せつ物管理（CH₄/N₂O）
- ・ 農用地の土壌（N₂O）

■ 日本の農林水産分野のGHG排出量



単位：万t-CO₂換算

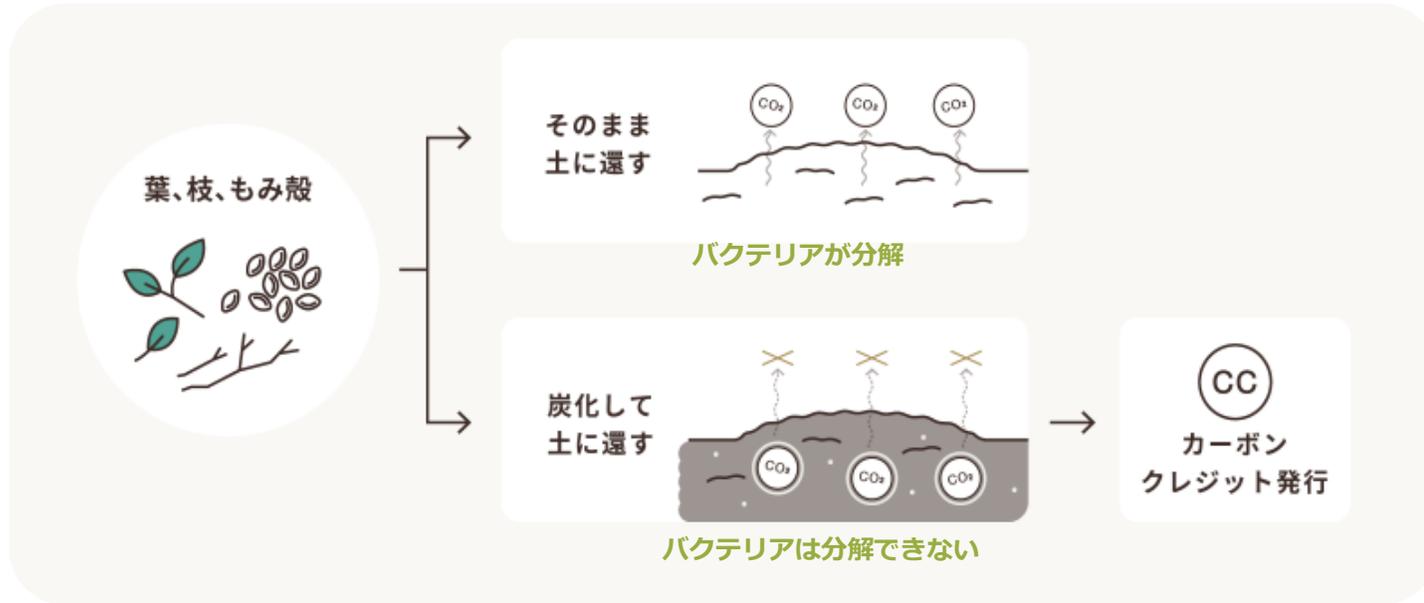
* 温室効果は、CO₂に比べCH₄で28倍、N₂Oで265倍。

* 排出量の合計値には、燃料燃焼及び農作物残渣の野焼きによるCH₄・N₂Oが含まれているが、僅少であることから表記していない。このため、内訳で示された排出量の合計とガス毎の排出量の合計値は必ずしも一致しない。

出典：国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ」を基に農林水産省作成

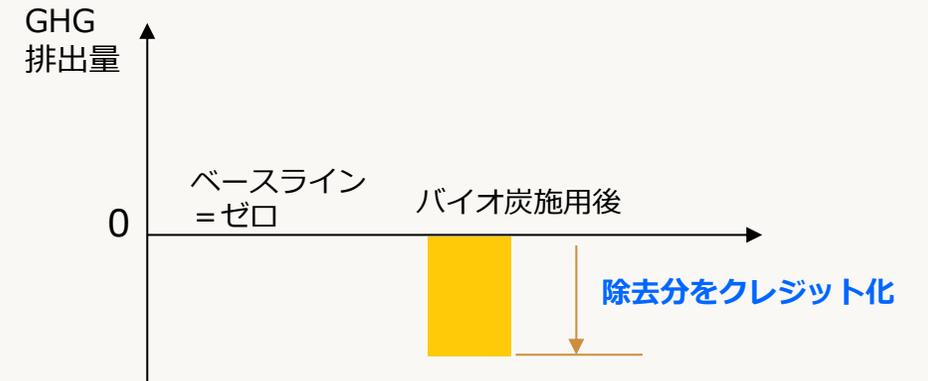
バイオ炭を農地土壌へ施用することで、難分解性の炭素を土壌に貯留する活動が対象

方法論のイメージ



ベースライン

ベースラインは、農地にバイオ炭が施用されなかった場合の貯留量



「バイオ炭」の定義

燃焼しない水準に管理された酸素濃度の下、350℃超の温度でバイオマスを加熱して作られる固形物

(2019年改良IPCCガイドラインに基づく)

専用のチラシを作成し、
オンラインフォームにてJクレジット申請に必要な情報を収集

1

TOWINGJクレジット創出プログラム 参加申込フォーム

- 参加表明、規約同意の確認
- 宙炭の散布先農地、散布数量など
- 申請ごとに毎回必要

2

納品書の写し

- 参加申込フォーム上で提出

- ・ 創出したクレジットは、高付加価値を付けて金融機関や食品系企業等へ販売

TOWING産クレジットの3つの特徴

生産者の支援



- ・ クレジット売却益の一部を**生産者へ還元**
- ・ クレジット購入を通じて全国の生産者の**所得向上に貢献**

高品質クレジット



- ・ バイオ炭クレジットは、大気中のCO2を直接減らす**除去系クレジット**に該当
- ・ 省エネ設備をはじめとした削減系クレジットより高品質

地産地消による地域貢献



- ・ 全国のプロジェクトから、ニーズに合致する地域で創出されたクレジットを販売
- ・ **地域産クレジットの購入で地域の脱炭素へ貢献**